

石狩川下流自然再生勉強会 議事概要

日 時：平成 26 年 1 月 29 日（水）16:15～17:15

場 所：札幌開発建設部 4 階 2 号会議室

出席者：黒木委員、中村委員、渡邊委員（以上 3 名）

（黒木委員）

地元でホロムイイチゴを再生したいなど、要望もあるようなので、ぜひ、遊水地も含め、色々な所で、無理のない範囲で、そのようなことができれば良いと思う。

（渡邊委員）

石狩川で高層湿原があったということは、河川水の氾濫による攪乱を受けながら徐々に出来上がったということであろう。

（黒木委員）

泥炭をどこからか掘って持ってきて、水をたくさん入れて、その上にコケを栽培するとよいのではないか。

まずは、夕張川高水敷で色々な知見を集積するということが必要。

（黒木委員）

夕張川や千歳川の遊水地を使って、高層湿原の再生ができるのかという命題と、もうひとつは、ホロムイ七草と称するものをもう一度再生できるのかという課題があるが、ホロムイ七草は必ずしも高層湿原である必要はないのかもしれない。

（中村委員）

将来的な意見ですが、多様性が保全できるということが重要ですし、幌向という名前のついた七草を保全するという事は、社会的にもインパクトがあると思う。美容品などへの利活用や CO₂ の固定なども期待できる。環境省の方では生態系サービスの評価をすることになっている。人間側から見て、このように生活が豊かになるといった視点がないと社会が応援してくれない。

（中村委員）

工学的な観点では、山を作って冠水頻度を下げて、何十年に 1 回、もしくは 50 年に 1 回くらいの冠水頻度にしておき、遮水壁的に水をためて、水分の雨による供給と蒸発散による消失が、うまくバランスを取ることができれば、ミズゴケ群落ができると思う。

（中村委員）

本州では、里山の再生が多く、米などと再生事業は必ず結びついている。北海道の開発は、自然を壊すような対立軸になってしまおうと思われるが、今回のこのような取り組みは良いと思う。辻井先生も、このようなことが大好きだった。

（渡邊委員）

高層湿原を活用したブランド化のようなものは考えられないか。

（黒木委員）

千歳川の遊水地について本来は改修を行っているうちに利用計画を作り、それにフィットした作り方をするほうが良いと思う。

たとえば渡良瀬遊水地では、火入れなど、維持管理イコールお祭りのような発想も考えられる。

(中村委員)

環境は、時間とともにどんどん変わっていく。変わっていくのを良しとする他、もう一度手を入れるということも良しとすることも考えられる。また、人間が手を加えないような形で維持できるような構造にするのことも重要。

(渡邊委員) (中村委員) (黒木委員)

千歳川の遊水地の環境の保全については渡り鳥による食害等の問題もあり、地域の合意形成に留意が必要。